



管理イーサネットインターフェイスコマンド

このモジュールでは、Cisco NCS 5001 ルータおよび Cisco NCS 5002 ルータ で管理イーサネットインターフェイスを設定するためのコマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドについて説明します。

管理イーサネットインターフェイスの概念、設定作業、および例の詳細については、『*Cisco NCS 5000* シリーズルータ向けハードウェア コンポーネント コンフィギュレーション ガイド』を参照してください。

- [duplex \(Management Ethernet\), 2 ページ](#)
- [interface MgmtEth, 4 ページ](#)
- [mac-address \(Management Ethernet\), 6 ページ](#)
- [speed \(Management Ethernet\), 8 ページ](#)

duplex (Management Ethernet)

管理イーサネットインターフェイスにデュプレックス モードの動作を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **duplex** コマンドを使用します。インターフェイスを自動ネゴシエーションされたデュプレックス モードに戻すには、**duplex** コマンドの **no** 形式を使用します。

duplex {full|half}

no duplex

構文の説明

full	管理イーサネットインターフェイスが全二重モードで動作するように設定します。
half	管理イーサネットインターフェイスが半二重モードで動作するように設定します。

コマンド デフォルト

デュプレックス動作を自動ネゴシエーションします。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

タスク ID

タスク ID	動作
interface	読み取り、書き込み

例

次に、管理イーサネット インターフェイスを全二重モードで動作するように設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0//CPU0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# duplex full
```

次に、管理イーサネット インターフェイスを半二重モードで動作するように設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0//CPU0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# duplex half
```

次に、管理イーサネット インターフェイスを自動ネゴシエーションされたデュプレックスモードに戻す例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0//CPU0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# no duplex
```

interface MgmtEth

管理イーサネットインターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、XR コンフィギュレーション モードで `interfaceMgmtEth` コマンドを使用します。管理イーサネットインターフェイスの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface MgmtEth *interface-path-id*

no interface MgmtEth *interface-path-id*

構文の説明

interface-path-id 物理インターフェイスまたは仮想インターフェイス。

(注) ルータ上に現在設定されているすべてのインターフェイスのリストを表示するには、**showinterfaces** コマンドを使用します。

ルータの構文の詳細については、疑問符 (?) を使用してオンラインヘルプを参照してください。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの使用に影響する特定のガイドラインはありません。

タスク ID

タスク ID	動作
interface	読み取り、書き込み

例

次に、管理イーサネットインターフェイスでインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0//CPU0/0  
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#
```

mac-address (Management Ethernet)

管理イーサネットインターフェイスの MAC レイヤアドレスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **mac-address** コマンドを使用します。インターフェイスをデフォルトの MAC アドレスに戻すには、**mac-address** コマンドの **no** 形式を使用します。

mac-address *value1.value2.value3*

no mac-address

構文の説明

<i>value1</i>	MAC アドレスの上位 2 バイト (16 進数表記)。範囲は 0 ~ ffff です。
<i>value2</i>	MAC アドレスの中間 2 バイト (16 進数表記)。範囲は 0 ~ ffff です。
<i>value3</i>	MAC アドレスの下位 2 バイト (16 進数表記)。範囲は 0 ~ ffff です。

コマンド デフォルト

デフォルトの MAC アドレスは、ハードウェア バンドイン アドレス (BIA) から読み取られません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

MAC アドレスは、4 桁の値が 3 つ並んだ形式になります (ドット付き 10 進数表記で 12 桁)。

タスク ID

タスク ID	動作
interface	読み取り、書き込み

例

次に、0//CPU0/0にある管理イーサネットインターフェイスのMACアドレスを設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0//CPU0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# mac-address 0001.2468.ABCD
```

speed (Management Ethernet)

管理イーサネットインターフェイスの速度を設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで `speed` コマンドを使用します。システムを自動ネゴシエーション速度に戻すには、`speed` コマンドの `no` 形式を使用します。

`speed {10|100|1000}`

`no speed`

構文の説明

10	インターフェイスを 10 Mbps で伝送するように設定します。
100	インターフェイスを 100 Mbps で伝送するように設定します。
1000	インターフェイスを 1000 Mbps (1 Gbps) で伝送するように設定します。

コマンド デフォルト

インターフェイスの速度は自動ネゴシエーションされます。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 6.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン



- (注) リンクの両端には必ず同じインターフェイス速度を設定してください。手動で設定されたインターフェイス速度は、自動ネゴシエーションされた速度よりも優先されます。これにより、リンクの一端で設定されたインターフェイス速度がもう一端のインターフェイス速度と異なる場合、リンクが動作するのを防ぐことができます。

表 1 : `duplex` コマンドと `speed` コマンドの関係、(9 ページ) は、デュプレックス モードおよび速度モードのさまざまな組み合わせに関するシステムのパフォーマンスです。指定した `duplex` コマンドを、指定した `speed` コマンドで設定すると、結果のシステムアクションが生成されます。

表 1 : *duplex* コマンドと *speed* コマンドの関係

duplex コマンド	speed コマンド	システムの動作
no duplex	no speed	速度とデュプレックスモードの両方を自動ネゴシエートします。
no duplex	speed 1000	強制的に 1000 Mbps (1 Gbps) および全二重になります。
no duplex	speed 100	デュプレックスモードを自動ネゴシエーションし、強制的に 100 Mbps になります。
no duplex	speed 10	デュプレックスモードを自動ネゴシエーションし、強制的に 10 Mbps になります。
duplex full	no speed	強制的に全二重に設定し、速度を自動ネゴシエーションします。
duplex full	speed 1000	強制的に 1000 Mbps (1 Gbps) および全二重になります。
duplex full	speed 100	100 Mbps および全二重を強制的に適用します。
duplex full	speed 10	10 Mbps および全二重を強制的に適用します。
duplex half	no speed	強制的に半二重に設定し、速度を自動ネゴシエーションします (10 または 100 Mbps)。
duplex half	speed 100	100 Mbps および半二重を強制的に適用します。
duplex half	speed 10	10 Mbps および半二重を強制的に適用します。

タスク ID

タスク ID

動作

interface

読み取り、書き込み

例

次に、管理イーサネット インターフェイスを1ギガビットで伝送するように設定する例を示します。

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)# interface TenGigE 0//CPU0/0
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)# speed 1000
```